総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要（平成29年度）

２．分野等別状況　（２）地域活性化総合特区　③アジア拠点化・国際物流分野（4/4）

	総合評価（ⅠとⅡとⅢを1：1：2の割合で計算）	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見（主なもの）
ながさき海洋・環境産業拠点特区（長崎県、長崎市、佐世保市、西海市）	3.2	2.8 進捗度 ・県内造船所による高付加価値船・省エネ船の建造量 91% ・県内造船所によるバラスト水処理装置の取扱件数（新造船・修繕等） 46% ・県内造船所等が建造に携わったあるいは県内に設置された海洋再生可能エネルギー利用発電設備の総設備容量 30%	3.4 規制の特例等 ・本工場と飛び地工場間の公道輸送に係る特例措置 等 財政支援等 ・海洋再生可能エネルギーの推進 地域独自の取組 ・ものづくり支援補助事業 ・海洋エネルギー関連産業集積促進事業 等	3.3	・高付加価値船・省エネ船の建造量について、目標値には届かなかったものの、海運市況など厳しい環境を考慮すると、開発や生産高度化の取組を進め技術的な優位性を維持しながら順調に建造量を増加させてきたことが評価できる。 ・環境に根差した事業は今後の成長産業であり、期待されるものである。 ・海洋再生可能エネルギーについて、実証フィールドの誘致促進、産官学での開発の取組、海洋エネルギー導入にともなう制度整備など多面的で幅広い取組で準備が進められている。 ・発電設備の容量の目標値には届かなかったが、平成32年度の運営開始であれば、そもそもの目標設定に無理もあったのではないか。来年度以降にずれ込んだものなどが来年度以降、成果に結びつくことを強く期待する。 ・地域独自の取り組み（財政支援）について、事業名からは、特区の趣旨との直接的な関連がわかりにくい事業が多いように見えるので、特区の目標達成に向けた取り組みとしての評価が難しい。特区の趣旨との関連性がわかる説明が自己評価の欄に必要と思う。